

頑張る

# 農業法人

京都市左京区の最北に位置する山里・広河原地域に、2009年6月に設立された農事組合法人「むぎわらぼうし」。農業以外の若手出身者3人が、農業法人を結成。地域住民との交流も深め、遊休農地を再生し、地域特産物の開発を目指すなど、地域化に取り組んでいる。

法人メンバーは代表理事の野崎義則さん(42歳・向日市)と理事の亀井芳郎さん(46歳・京都市中京区)、西河友彦さん(48歳・同北区)。きつかけは、自営業の西河さんが9年前、左京区広河原にある京都広河原スキー場の経営難から、営業を引き継いだこと。西河さんは、豊かな大自然の中で農業をやるうと、空き農地を借り、

野菜作りを始めた。

□ □

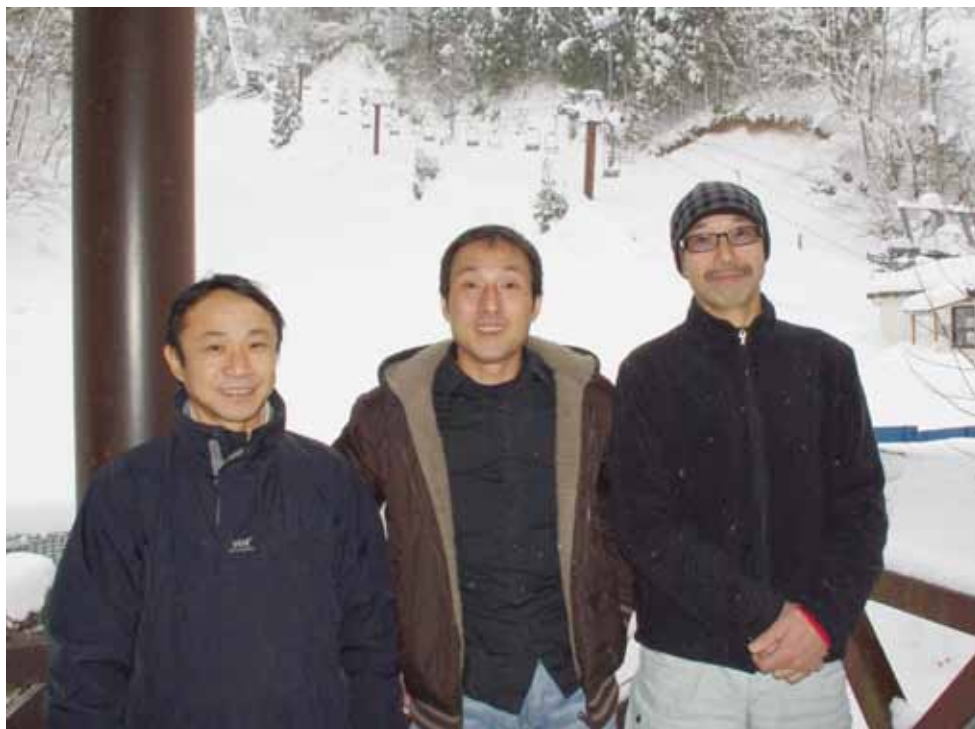
旅行代理店経営の亀井さんは、西河さんに誘われ、以前から興味があった農業に就こうと一大決心。今では市街地の自宅から毎日通い、野菜作りに励む。スキー場を手伝っていた野崎さんは、2人の働き掛けで広河原の空き家を借り、農業に携わった。

3人は学び合いながら、当地に合った野菜を作ろうと、手探りでナス、キュウリ、トマト、ダイコンなど、多品目に挑戦した。技術も徐々に身につく、「産業として農業をやろう」との思いが合致し、法人を立ち上げた。現在、近隣の遊休農地2軒を借り、「賀茂なす」や「万願寺とうがらし」などの京野菜をはじめ、

京都市左京区  
広河原地域

## (農)むぎわらぼうし

大雪の広河原スキー場を背景に頑張る(右から)西河さん、野崎さん、亀井さん



## 遊休農地で野菜作り

## 農外出身者が「産業」めざし

果店などからも「こだわりの栽培」として高い評価を得ている。

ただ、規模が小さいため、経営は厳しく、販路拡大が課題だ。今後、高齢化による耕作放棄地を活用しての規模拡大や、地域特産物開発などを目指す。また、イノシシ、鹿などによる被害対策として、市の援助を得て、電気柵を設置し、今年から水稲栽培にも取り組む計画だ。

3人は「将来的には、田舎暮らしや新規就農希望者を受け入れ、担い手育成にも努めたい」と夢が膨らむ。

代表理事の野崎さんは「地元の人もよく協力してくださる。安全・安心のこだわり栽培野菜を生産し、力を合わせて地域活性化につながる道づくりを広めたい」と意気込む。

▽法人の所在地 京都市左京区広河原尾花町286  
▽電話 075(746)0831

いろいろな国内外の野菜を栽培している。

法人は、安全・安心の無農薬、有機質肥料にこだわった野菜を、J A 京都で販売。飲食業者、青

□ □